

# 2024年度 同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議(大宗連)

## 事業計画 <基本方針>

「大宗連」は、人々を救い導く立場であるべき宗教者が、むしろ部落差別問題において差別の担い手であったことに気づかされたという大きな事実と反省から、在阪の宗教教団が各々の教えの根源に立ちかえり、部落差別を克服することを目的として、1982年に発足しました。

その目的実現のために、「大宗連」はこれまで多年にわたり、部落差別について啓発を進めると共に、加盟する教団・団体の啓発活動に共に取り組んでまいりました。

2022年2月に発生したロシアによる一方的なウクライナへの軍事侵攻から1年以上が経過しました。しかし、収束に向けての道筋は一向に見えず現地の状況は混沌とし、多くの人々が今も困難な生活を強いられています。そのような中、2023年10月7日には、ハマス（パレスチナ解放を訴える武装組織）によるイスラエルへの大規模攻撃が発生しました。それに対し、イスラエルは報復攻撃を行い今も交戦状態が続き、双方に多くの犠牲者、被害者が出ています。特にパレスチナ自治区（ガザ）で生活する多くの方々は難民として認定され、かなりの制限を受け、差別や貧困に苦しめられています。一般市民が身体的にも、精神的にも大きく傷ついています。暴力で、生命と財産を脅かす行為は重大な人権侵害です。私たち宗教者は絶対非戦の精神を新たにし、あらゆる場所での暴力行為を非難し、一刻も早く収束に向かうよう願い、人権問題の課題として風化させることなく、啓発してまいります。

新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へと以降し、コロナ禍前の生活に戻ってきています。大宗連としても、昨年以降徐々に活動を活発化させています。その中において、地元大阪の被差別部落等について学びなおす契機として、昨年度は山王・飛田地区について座学とフィールドワークで学びました。今年度以降も継続して学びを深めることで、これまで大宗連加盟教団の行ってきた啓発活動について点検し、理解を深め、早期に差別のない社会の実現をめざすことが必要です。

以上のことから、今年度も、大宗連結成の「原点に立ち返り」、これまで大宗連として取り組んできたが「未だ解決が図られない部落差別問題への取り組み」を中心的な視点として、「大宗連」主催の行事はもとより、各加盟教団や関係諸団体主催の研修等への積極的な参加を推し進めてまいります。さらに、私たちは部落差別を中心とした人権に関わる諸問題についての学びを深めていくことを通して、一人ひとりがかげがえのない個人として尊重される社会となるために活動することを基本方針といたします。

# 2024年度「大宗連」役員・代表委員・専門部会・事務局

## 【役員】

議長	伊藤忠茂	(大本)
副議長	吉村誠治	(出雲大社教)
	四斗晴彦	(金光教)
	岡田浩信	(浄土宗)
	飯田祐子	(神社本庁)
常任委員	松家宣崇	(高野山真言宗)
	高島保	(金光教)
	仲尾信博	(浄土真宗本願寺派)
	西埴康行	(真言宗御室派)
	禿信敬	(真宗大谷派)
	黒澤正往	(真宗興正派)
	中井賢隆	(真宗佛光寺派)
	公文孝枝	(新宗連同和推進連絡協議会)
	霊群徹全	(西山浄土宗)
	廣瀬文昭	(曹洞宗)
	山本道明	(天理教)
	尾島信之	(日本基督教団)
	太田幸彦	(日本聖公会)
	西正二	(念法真教教団)
	好野良博	(融通念佛宗)
	南谷恵敬	(和宗)
監事	成田信哉	(金光教)
	磯晴久	(日本聖公会)
顧問	北浦徳次	(天理教)

## 【代表委員】

北浦徳次	(天理教)	同和問題解決(部落解放)・人権政策確立要求 大阪実行委員会
関伽井啓三	(融通念佛宗)	(一社) 部落解放・人権研究所
大江拓真	(真宗大谷派)	世界人権宣言大阪連絡会議
太田幸彦	(日本聖公会)	国際人権大学(夜間)の実現をめざす大阪府民会議

## 【専門部会】

企画・研修部	大宗連事務局が兼務
広報部	福田吉和(天理教)

## 【事務局】

事務局長 伊藤 香(大本)